木内さん

栽培半世紀、見事に20種300鉢

築いたキキョウの〝小国〟

小国　小国町伊佐領の木材加工業木内茂雄さん(72)はキキョウに魅せられ、50年以上栽培を続けている。鉢植えの数は300ほどになり、今夏もさまざまな色の花が咲き誇る。中には花びらの内側と外側の色が違う珍種もあり、多くの町民の目を楽しませている。

木内茂雄さん（左）が丹精込めて育てたキキョウが清らかな花を咲かせている＝小国町小国

木内さんは東京都出身。小学生の時に長野県で見た、やぶの中に楚々（そそ）と咲く鮮やかな紫のキキョウの姿が心に残り、20代で栽培を始めた。34年前に小国町に移ってからその趣味は一層加速。譲り受けたり買ったりした種を鉢植えで育て、約20種類300鉢までに増やした。経営する小国小坂町の事業所の敷地に並べており、6月下旬から次々と開花。8月末まで観賞が楽しめる。

キキョウは親と同じ花が咲くとは限らず、紫のほか濃い紫、白、ピンク、白に紫の線入り、白と紫のまだら―などさまざまな色や模様を付ける。花びらは通常一重の5弁だが、八重咲きのものもあり、木内さんも計10枚の品種を育てたことがある。「咲くまでどんな色が出るか分からない。それも楽しみの一つ」と魅力を語る。

4年前には、内側が白で外側がふじ色の花弁を付けた品種が咲いた。色は表裏同一なのが一般的で「突然変異だろうが、長年育ててきて初めて出合った品種」と木内さん。「貴婦人」と命名し、株を増やしている。

キキョウの花言葉が「変わらぬ愛」「気品」などであることを最近知った。「私をとりこにしたイメージそのもの。ますますこの花を好きになった」と目を細めた。観賞などの問い合わせは木内さん090（1498）5408。

山野草や庭石使い 心癒やすミニ庭園

天童の阿部さん

寒河江　山野草や庭石を使い、室内に飾ることができる小さな庭園を紹介する展示会が1日、寒河江市のさくらんぼ会館で始まり、見る人の心を癒やしている＝**写真**。

天童市内でミニ庭園工房「植敏」を営む阿部敏昭さん(69)＝同市三日町2丁目＝が企画。阿部さんは会社勤めの傍ら、手に職を身に付けたいと、40代後半から庭師を目指し勉強を続けてきた。庭付き住宅が少なくなっている現代の傾向から、屋内展示用の坪庭を手掛けるようになった。

山野草に手をなるべく加えず、剪定（せんてい）だけを行い、自然に近い姿を表現しているのが特徴。ブナやモミジなどの木々を四方から見て楽しむ盆景、コケむした石に灯ろうや橋、川などを表現したミニ庭園などが並ぶ。阿部さんは「いつ見ても飽きない楽しみがある。小さな坪庭ファンを増やしていきたい」と話す。午前9時～午後6時。3日まで。

モーニング野球（1日）

◇**鶴岡**（鶴岡四中グラウンド）
▽決勝トーナメント2回戦
ホワイトソックス　101000002
000101002
荘内三菱電機商品販売
（引き分け再試合）
（ホ）五十嵐和―鈴木（荘）五十